

## 「今後の県立高校に関する地域検討会議（第4回）」記録要旨【盛岡ブロック①】

【八幡平市、滝沢市、葛巻町、矢巾町】

平成 28 年 1 月 25 日（月）

県盛岡地区合同庁舎 8 階 大会議室

### 【田村 八幡平市長】

- ・ 今回の再編計画案は地域の意見が反映されていると感じている。
- ・ 平館高校は平成 31 年度に 1 学級減となっているが、再編計画案では、「ブロックにおける中学校卒業予定者数に回復の見込みがある場合等には慎重に検討します」とある。今後、継続的に 2 学級を超える希望者があった場合でも平成 31 年度に学級減を行うことになるのか。学校でも保護者にアンケートをしたようであるが、同じような懸念を持っているようである。
- ・ 平館高校は、部活動で特色を出しており、これを継続していくためには指導者の確保が必要である。教員の配置について、配慮していただけるのか。

### 【佐野峯 滝沢市 副市長】

- ・ 滝沢市としては、再編計画案について特に異論はない。平成 32 年度以降についても、地域の理解を得ながら進めていただきたい。

### 【鈴木 葛巻町長】

- ・ 葛巻高校については、通学が極端に困難である学校として、1 学年 1 学級でも存続するとしていただいたことに感謝する。しかしながら、平成 30 年度に 1 学級減とすることについては、時期尚早と感じる。山村留学の取り組みを始めたばかりであること、連携型の中高一貫教育校であること等から、慎重に検討していただきたい。今後の入学者数の状況等も見ながら進めていただきたいと考えている。平成 30 年度の 1 学級減については再検討願いたい。

### 【高橋 矢巾町長】

- ・ 矢巾町としては、基本的にはこの再編計画案に異論はない。
- ・ 高校卒業後の 3 年以内の離職者が約 4 割という実態について、再編計画を進めるにあたってどのように分析し、解決していこうとしているのか伺いたい。
- ・ 地方版総合戦略に関わり、この再編計画案では専門高校の在り方について、どのように検討しているのか。
- ・ 通学等の支援の中で、例えば、寮を設置する等といった対応は考えているのか。
- ・ 再編を検討する中で、私立高校との協議等はされてきているのか。

### 【武田 新岩手農業協同組合 常務理事】

- ・ 今後、生徒数の減少がさらに進めば、統合はやむを得ないと考えている。統合の検討にあたっては、地域と十分意見交換を行っていただき、やむなく統合する場合は、生徒の通学手段を確保していくことが必要と感じている。

### 【三河 新岩手農業協同組合 南部営農センター長】

- ・ 農協では農業高校に限らず高校生を受け入れている。生徒の感想を聞くとやって良かったといった声を多くいただいており、今後も地域の産業界と連携した取り組みをして、地域に残る人材を育てていただきたい。

(次頁に続く)

**【遠藤 八幡平商工会 事務局長】**

- ・ 地元の商工業の発展や活性化には、地元の高校生の果たす役割は大きいと感じている。
- ・ 生徒の多様な進路目標を達成させるために、望ましい学校規模として1学年4～6学級が必要なことは理解する。1学級の規模については検討していただき、1学級40人以下となるよう今後も国に対し要望していただきたい。

**【阿部 滝沢市商工会 会長】**

- ・ この再編計画案は、地域の意見を取り入れた良い案になっていると感じており賛成する。この計画に基づき、各高校で特色を出していただき、若い方々が地元に残っていただくよう、地域と連携しながら取り組んでもらいたい。そのため、県教委としても各高校の特色が出せるよう部活動指導者等の教員の配置には御配慮願いたい。商工会としても様々な面でバックアップしていきたい。

**【沼田 矢巾町商工会 事務局長】**

- ・ この再編計画案は、県全体のバランスに配慮したものになっているが、盛岡ブロックでは普通科の学級減が多いと感じる。
- ・ 昨今の農業情勢から、農業学科への志願者が確保されるのか心配しているが、それらのことも勘案して計画案を作られたのか伺いたい。

**【立花 八幡平市PTA連絡協議会 理事】**

- ・ 少子化にともない高校再編はやむを得ないと感じているが、そういう状況であっても、子ども達の選択肢をできるだけ確保していくことが大切である。
- ・ 地元の高校に入学し地元に残りたいと考えている子ども達もいるので、今後とも地域の高校の在り方については慎重に検討していただきたい。

**【井上 滝沢市立一本木中学校PTA 会長】**

- ・ 盛岡ブロックでは、普通高校の学級減が多いと感じる。専門学科については、減らすことにより生徒の選択肢が狭められることが気になる場所である。
- ・ 盛岡市内では私立高校も含め多くの高校があり選択の幅はあるが、高校が1校しかない地域、通学が極端に困難な地域では、今後より慎重な検討が必要と考える。

**【山本 葛巻町小中学校PTA連合会 会長】**

- ・ 葛巻高校が存続することになり、地域の方々は喜んでいる。平成30年度に1学級になることが示されているが、今後も2学級で存続できるようであればありがたい。
- ・ 現在は少子化であるが、今後、人口を増やし地域を活性化していくにはどうすれば良いか、みんなで考えていくことが必要ではないか。

**【川村 矢巾町PTA連絡協議会 副会長】**

- ・ 生徒の減少に伴い、高校再編を進めていくことはやむを得ないと感じている。再編を進めながら、中学生が入りたいと思うような魅力ある高校づくりをお願いしたい。

**【遠藤 八幡平市教育委員会 教育長】**

- ・ この再編計画案は、よく工夫されていると感じている。望ましい学校規模1学年4～6学級については、再編計画案の6ページに書いてある通りだと思っている。学校の最低規模を2学級としたこともその通りであると思っている。
- ・ 平舘高校は平成31年度に1学級減となり2学級校となる予定である。義務教育では41人の入学者があった場合2学級となるが、高校では、今後どのように入学者が推移していった場合、さらに1学級減になるのかお聞きしたい。

(次頁に続く)

- ・魅力ある高校にしていくには、魅力ある教員の配置が必要である。学校の特色に応じた教員を継続的に配置していただきたい。

**【熊谷 滝沢市教育委員会 教育長】**

- ・この再編計画案は、地域の意見を丁寧に聞いて作られたものと認識している。高校は小中学校と異なり、ある程度の学校規模は必要であり、その中で生徒が切磋琢磨しながらお互いに高めあっているところと思っている。そういった中でも、通学が極端に困難な地域では特例校を認める等、広大な県土を踏まえた良い案だと思っている。今回の地域検討会議でいただく地域の意見をしっかり受け止めて、計画を策定していただきたい。

**【中田 葛巻町教育委員会 教育長】**

- ・葛巻高校は特例校として、1学年1学級校となったとしても、後期計画も含めて存続していただけたこととしたことに感謝する。
- ・現在、町では若者の流出を防ぐ取り組みを始めたこと、他県から生徒を受け入れる山村留学等に取り組んでいることもあり、期限を示した平成30年度の1学級減については検討をお願いしたいと考えている。もう少し町の取り組みを見ていただいてから、判断していただいても遅くはないのではないかと。1学年1学級校となれば、教育の質の維持がかなり難しくなる。7学級校の1学級減と2学級校の1学級減は1学級の重みが違う。こういったことも配慮いただきたい。

**【越 矢巾町教育委員会 教育長】**

- ・再編計画案についての異論はない。不来方高校は平成32年度に1学級減とし学系を見直すところがあるが、具体的にはいつ見直しされるのか。中学生や保護者にわかるようになるべく早く示していただきたい。

**【和田 紫波郡校長会 会長】**

- ・この、再編計画案は地域の意見に配慮したものとなっていると感じている。特に、地方創生への取り組みに地域の高校は非常に重要であり、小規模校であっても存続が必要としたところは、沿岸や県北の中学校で勤務したこともあることから必要と感じている。
- ・中学校の卒業生が報告に来る。充実した高校生活を送っていると生き生きと話し帰っていく。再編を進めるにあたっては、中学生の夢をかなえられるような魅力ある高校づくりを、今後ともお願いしたい。

**【千田 岩手地区校長会 副会長】**

- ・再編計画案をまとめるにあたり、膨大な時間を費やし様々なデータや各地域の意見を取り入れまとめられたことに敬意と感謝をしたい。

**【県教委】**

- ・学級減の考え方について、12ページの全体プログラムに記載しているとおり、「今後、入学者で概ね20人の欠員が生じた場合には翌年度学級減を行う。ただし、ブロックにおける中学校卒業予定者数に回復する見込みがある場合には学級減を行わないこともある」としている。震災後は、管理運営規則に関わり、1学級の収容定員以上の欠員が生じたときは学級減を行ってきたが、この再編計画案では、ブロック内での募集定員に対する欠員を考慮しながら調整していくということで、このような考え方を示している。盛岡ブロックにおいては平成32年度までに8学級減を行うこととしている。
- ・部活動等に関わる教員配置について、限られた教員の中で配置を考えていかなければならないことであり、各学校の状況を十分勘案しながら、対応していくことになる。この件に関しては、今後、  
(次頁に続く)

地域の皆様からも御協力をいただきながら進めなければならないと考えている。

- ・ 葛巻高校の平成 30 年度の学級減について、葛巻町の中学校卒業予定者は平成 30 年に 45 人、31 年に 31 人、32 年に 32 人であり、また、過去 3 年間の葛巻高校への進学率等を勘案して推計すると、平成 30 年には 39 人、31 年には 30 人、32 年には 29 人と予想されることから、平成 30 年度に 1 学級減とする案を出させていただいたもの。葛巻町では山村留学に取り組んでおり、移入も考えられる。そういった取り組みから、今後、中学校卒業予定者に回復の見込みがある場合には、実施時期を遅らせる場合もある。現状分析からこのような提案をさせていただいていることを御理解いただきたい。
- ・ 離職率のデータについては、厚生労働省で調査したものである。各学校の状況については、校長会の進路部会でも調査しているが、回答状況が思わしくないこと等から、詳しいことは分からない。離職の理由については様々な理由が考えられる。各高校では、企業や地域の御協力をいただきながらインターンシップ等を行い、キャリア教育の充実に努めているところである。
- ・ 専門高校の配置については、中学生の選択肢をできるだけ確保してほしいといった意見を踏まえ検討したものである。
- ・ 通学に対する支援に関連して、寮の設置は考えられないか御意見があったが、現状では入寮している生徒が少ないこともあり、県内全域に設置することは難しいと考えている。
- ・ 私立高校との協議について、県の私学を担当する部署を通じて、私学協会と情報交換をしている。
- ・ 少人数学級について、これまでも教職員の定数改善については、国に対し要望している。義務教育でも全ての学年で導入されていないこともあるが、引き続き国への働きかけを行っていきたい。
- ・ 農業関係への進路について、農業高校でも卒業した全ての生徒が農業関連の進路を希望する状況にはなっていない。現在、農林水産部と学校が連携して、農業指導士等を活用したインターンシップの強化や農業法人等への就職拡大に向けた取り組みを進めているところであり、このような取り組みを通して、就農を含めた農業関連産業へ進む生徒が増えていくことを期待している。
- ・ 葛巻高校を 2 学級校として存続させてほしいとの要望について、今回は、今後の生徒数の減少を踏まえ案を示させていただいたものである。1 学級校になれば教育の質の確保が難しくなるが、遠隔授業や教員の相互派遣等を検討し、さらに、地域と連携しながら教育の質の確保に向け取り組んでいきたい。
- ・ 不來方高校の学系の見直しについては、再編計画案策定後、学校を中心に検討していく。
- ・ 義務教育では入学者数が 41 人になると 2 クラスとなるが、高校ではどうかとの質問について、高校では生徒数ではなく、募集定員で学級数を決めるため、40 人定員とした場合は 41 人入学したとしても 1 クラスで運営することになる。

#### 【県教委】

- ・ 学系の見直しについて、基本的に入学した生徒の学ぶ内容が変更されることはない。高校の教育課程は年次毎に変わっていくものである。

#### 【田村 八幡平市長】

- ・ 再編計画案の 12 ページに、「ブロックにおける中学校卒業予定者数に回復の見込みがある場合等には学級減を行わないことがある」とあるが、これを、希望者数に変えることはできないのか。仮に、今後、希望者数が多くなった場合はどうするのか。

(次頁に続く)

**【県教委】**

- ・ 震災以前は、ブロック毎に欠員の状況、中学校卒業予定者数等を把握して、大きく欠員を生じなくても学級数調整を行ってきたが、震災後はブロック毎の調整ではなく、40人以上の欠員が生じた個別の学校を対象に学級数調整を行ってきた。このことにより、県内全体で大きな欠員を生じており、今回の再編計画案では、ブロック毎の学級数調整を行うこととした。このままの中学校卒業予定者数で推移すれば、今回お示しした案で実施していかなければならないと考えている。ただし、学級減を行う場合は、ブロックの状況を十分確認した上で進めていきたい。

**【田村 八幡平市長】**

- ・ 平成28年度から30年度までの状況をみて判断することになるのか。

**【県教委】**

- ・ 平成31年度に実施するとした場合、その時点の状況を確認した上で実施することになる。

**【鈴木 葛巻町長】**

- ・ 葛巻高校は平成30年度に1学級減とあるが、山村留学として他県からの受け入れも進めているところである。例えば240人定員の1学級減と80人定員の1学級減では大きく違う。その時点の状況を見ていただきながら柔軟に対応していただきたい。

**【県教委】**

- ・ 再編計画案の全体プログラムには、「入学者で概ね1学級20人以上の欠員が生じた場合には翌年度に学級減を行います」と記載しているが、20人以上の欠員が生じたからといって、直ちに適用することは考えていない。葛巻町の山村留学の取り組み等を考慮し、十分意見交換させていただきながら、学級減の取り扱いについて進めていきたい。

**【田村 八幡平市長】**

- ・ 例えば、1学級30人定員とした場合、財政負担はどれくらいになるのか。また、30人学級を導入している都道府県はあるのか。

**【県教委】**

- ・ 平成20年度の試算によると、県内全ての高校を30人定員とした場合は約40億円、35人定員とした場合は約16億円と試算している。県では現在、復興が最優先課題となっていることもあり、教育予算だけを増額するのは厳しいところがある。また、震災にかかわる加配として、県内の高校には34人が配置されている。しかし、これについてもいつまで続くのか不透明な部分があり、国の動向を見極めた上で対応する必要がある。
- ・ 青森県や秋田県の専門高校では1学級35人としているところがある。確認したところでは、秋田県は募集定員を少なくしたことにより、国からの財政措置が少なくなった分を県としての負担していないということであった。本県においては、財政的な面とともに継続できるかということも含めて勘案し検討して参りたい。

**【県教委】**

- ・ 35人学級の導入については、県教委でも義務教育において何とか拡大できないか、市町村教育委員会の御協力をいただきながら文科省をはじめ要望を続けているところである。
- ・ 今後の中学校卒業予定者数は分かっているところであるが、高校にどれくらい入学するかが分からないところが難しいところである。大きな状況の変化があればその時点で判断していくことになる。
- ・ 今後も皆様から意見を伺いながら、本県の高校教育の振興に努めて参りたい。